



広報誌 PLUS

第6号 発行日 令和6年9月
発行者 生活介護事業所プルスペース

～ 巡り合い ～

主任支援員 金田 朝香

「生活介護事業所プルスペース」は、利用されている皆様をはじめ、地域の方々や各連携機関の方々からのご理解やご協力のおかげで開所から1年半を迎えることができました。昨年4月の開所だったということもあり、現在、当事業所に通われている方々の殆どが年度の途中でやむを得ない理由で他事業所から移って来られた方ばかりです。今年度も、6月を過ぎてからの見学や問い合わせが増えつつあり、既に2名の方が利用を開始されました。

年度の途中で当事業所に来られた方々の経緯は様々ですが、共通して言えることは「居場所」を失くす経験をされたということです。その経験は、ご本人のみならずご家族にとっても驚きや悲しみなど、言葉にできない感情や衝撃を与えるものだったかと思います。しかし、当事業所で出会った方に限らず、同じような状況の方々は地域に多くおられ、そういった状況を知ったことが「生活介護事業所プルスペース」を開所するに至った大きなきっかけになりました。しかしながら、利用の継続が難しいと判断された事業所さんに責任があるというわけではないとも思います。特に強度行動障害を有する方の場合、個人の特性やニーズの理解を深めながらも、事業所の環境や活動内容など様々な要素に加え、限られた人員で他利用者の支援を行いつつ、安全かつ充実した活動の提供を行うために「激しい行動にどう向き合っていくのか」、「今後も提供できるのか」を常に考える必要があります。

先程の「居場所」という言葉には、建物や過ごす場所といったハード面だけでなく、共に過ごす支援者の存在も大きな要素であると考えています。地域移行が推進される福祉情勢の中、どんな形であれ社会と関わることは避けられませんが、社会の場には一人ひとりの個性や行動に合わせた活躍の場は未だ整備されておられません。だからこそ、より長く安心して共に過ごすことができる「居場所」＝「支援者」と巡り合うことが重要だと感じます。過ごす場所や活動が変わってしまうことに大きな不安や焦りを感じるかもしれませんが、新しい環境に挑戦することで、共に社会の中で過ごすことができる支援者と巡り合い、より良い「居場所」を見つける機会となるかもしれません。

私たち自身も、全ての方々の力になることができるとは考えていませんが、だからこそ巡り合わせを大切に、手の届く限りで「生活介護事業所プルスペース」を必要とくださる方にとって、より良き居場所となれるようスタッフ一同努めて参りたいと考えております。今後とも、ご理解ご協力のほどよろしくお願いいたします。



～ 暑さ対策と体調管理～



暦の上では秋となる9月ですが、まだまだ残暑というには厳しい暑さが続いております。当事業所でも各利用者の方の様子に留意しながら、それぞれに合わせた活動の提供や水分補給を行っています。

特にここ数年は熱中症リスクが増加しておりますので、当事業所を支えて下さっている皆様方におかれましても、十分にご注意頂きながら、健康を第一に考えてお過ごしください。



(有) 万葉堂
生活介護事業所
プルスペース

